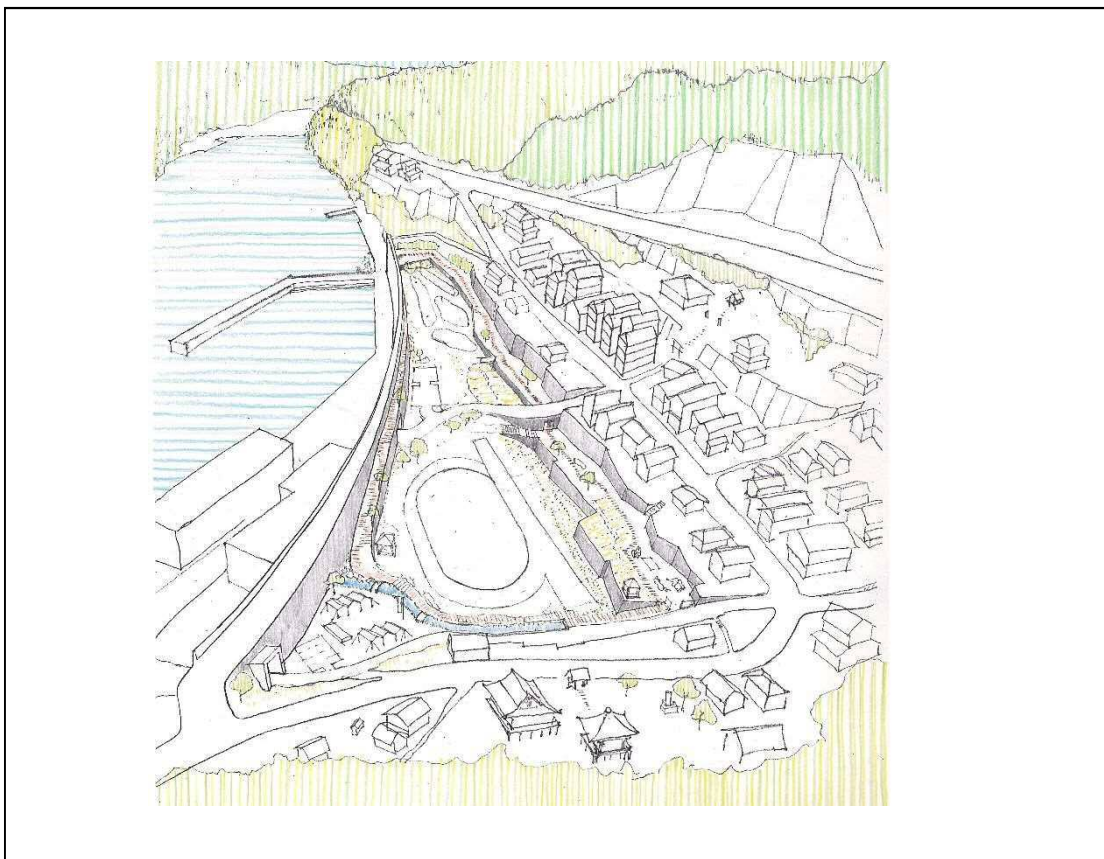


唐丹小白浜まちづくり意見交換会 報告書 2013.11.16

「海の広場」計画



海の広場 事前アンケート調査結果から <住民の声>

- “子どもが少なくなっていくので有効に利用できればよい”
- “ベンチがあって談話しながら半日でも家から出て楽しめる広場を考えます”
- “若い人が少なくなっていくので、管理と維持に対する心配があります”
- “流された低地を思い出したくないが、グラウンドや広場が出来て子ども達のにぎやかな声がかかる様になって、昔のにぎやかな小白浜になることを願います”

平成 25 年 10 月
建築基本法制定準備会 幹事会

目次

1)はじめに

2)アンケート調査

3)海の広場計画

海の広場計画俯瞰図

海の広場計画図 1/1000 A3

海の広場計画説明

4)意見交換会

プログラム

■ 10/11(金)

■ 10/12(土)

■ 10/13(日)

5)参加者名簿

6)あとがきにかえて

「伝統ある暮らしと現代的土地利用の共存を」日本女子大学準教授 葉袋奈美子

7)謝辞

8)巻末資料

8-1 「唐丹町小白浜における防潮堤高さと災害危険区域指定に関する意見」

東京大学名誉教授 神田 順

8-2 葉袋準教授 講演会資料(PPT 写し)

8-3 写真資料(基本法準備会幹事 永谷)

8-4 意見交換会に参加して

① 基本法制定準備会 水津秀夫

② 日本女子大学住居学科 学生 4 名

③ 東設計所 東 亮

④ アトリエ 71 倉田 充

⑤ 住宅勉強会 守利 靱彦

⑥ 住宅勉強会 水野美代子

1)はじめに

東日本大震災からすでに2年6カ月を経過しました。ようやく復興のきざしが見えつつありますが、唐丹小白浜でもまだ多くの方々が仮設団地に住んで、復興の日を待っています。昨年8月のワークショップでは、唐丹小白浜の地形模型をつくり、唐丹小学校のこどもたちに将来のまちの絵を描いてもらい、そして3日目に、まちづくりについて皆で考えるシンポジウムを開催し、まちづくり宣言を発表しました。

“唐丹小白浜のまちづくりワークショップを開催し、ここにまちづくり宣言をします。

小白浜の将来を考え、一人ひとりの気持ちを大切にしたい議論を積み重ね、

美しく快適で安全なまちを、つくっていきます。”

2012.08.19 参加者一同

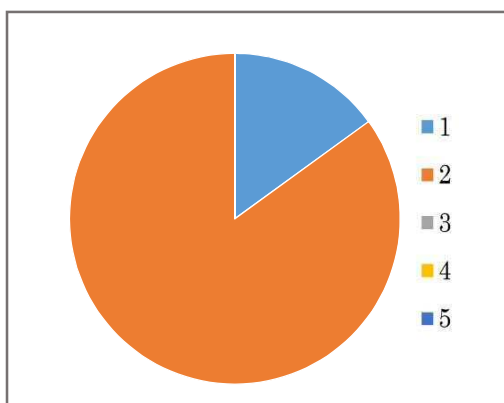
今年、町内会の呼びかけで、建築基本法制定準備会の有志を中心に準備をして、昨年同様に3日間の第2回唐丹小白浜まちづくり意見交換会を開催しました。防潮堤とスキッチ通り(敷地通り)の擁壁で囲まれた低地域域の将来像をテーマに取り上げました。低地域域は釜石市の新しい条例では、災害危険区域に指定される方向で検討されておりますが、小白浜にとっては大切な空間で、そこをどのように活用できるかが、まちの復興に大きくかかわると考えられます。私たちは、今後の唐丹町全体の復興計画を考える上でも、ここが快適で豊かな、まちの大切な中心的空間になると考えています。いままでそこを生活の場としていた、まちの人々の意見を自由に出し合って、さらに外部の人の目を加え、専門家の意見も交えて、魅力的な利用計画を、考えていくことに大きな意味があると思います。住民主体で検討する機会にすることで、明日のまちづくりにつなげたいものです。

建築基本法制定準備会の呼びかけで参加した16人は、今回の宿泊先として大船渡市越喜来の鹿牧場のリゾート施設を利用することができました。三陸の海と山のすばらしさを体験しながら、唐丹小白浜の将来像を考える場に参加できることを、とても嬉しく思います。

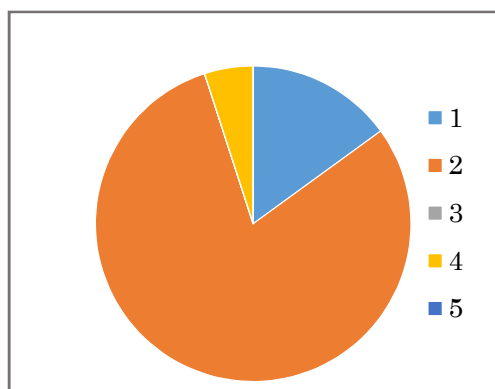
2)アンケート調査結果

10月3日から10日の間にわたり、町内および仮設団地に30通のアンケートを依頼し、低地部の利用についてグラウンド、広場、農園、漁業施設についての必要性を尋ね、20通の回答を得ました。その結果は以下の通りです。

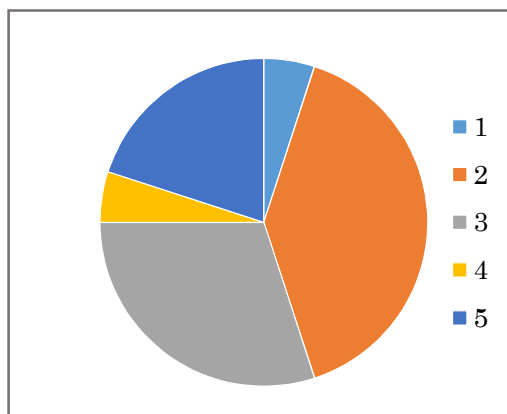
・グラウンドがあると良いか？



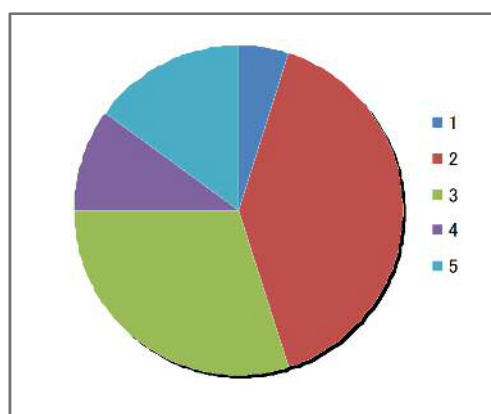
・広場があると良いか？



・共同農場があると良いか？



・漁業施設があると良いか？



凡例

■ 1 必要 ■ 2 あった方がいい ■ 3 無くていい ■ 4 不要 ■ 5 無回答

アンケートの結果をもとに、12日の意見交換会では、2つのグループに分かれて議論し、その結果を

「海の広場計画」としてまとめました。

海の広場計画俯瞰図

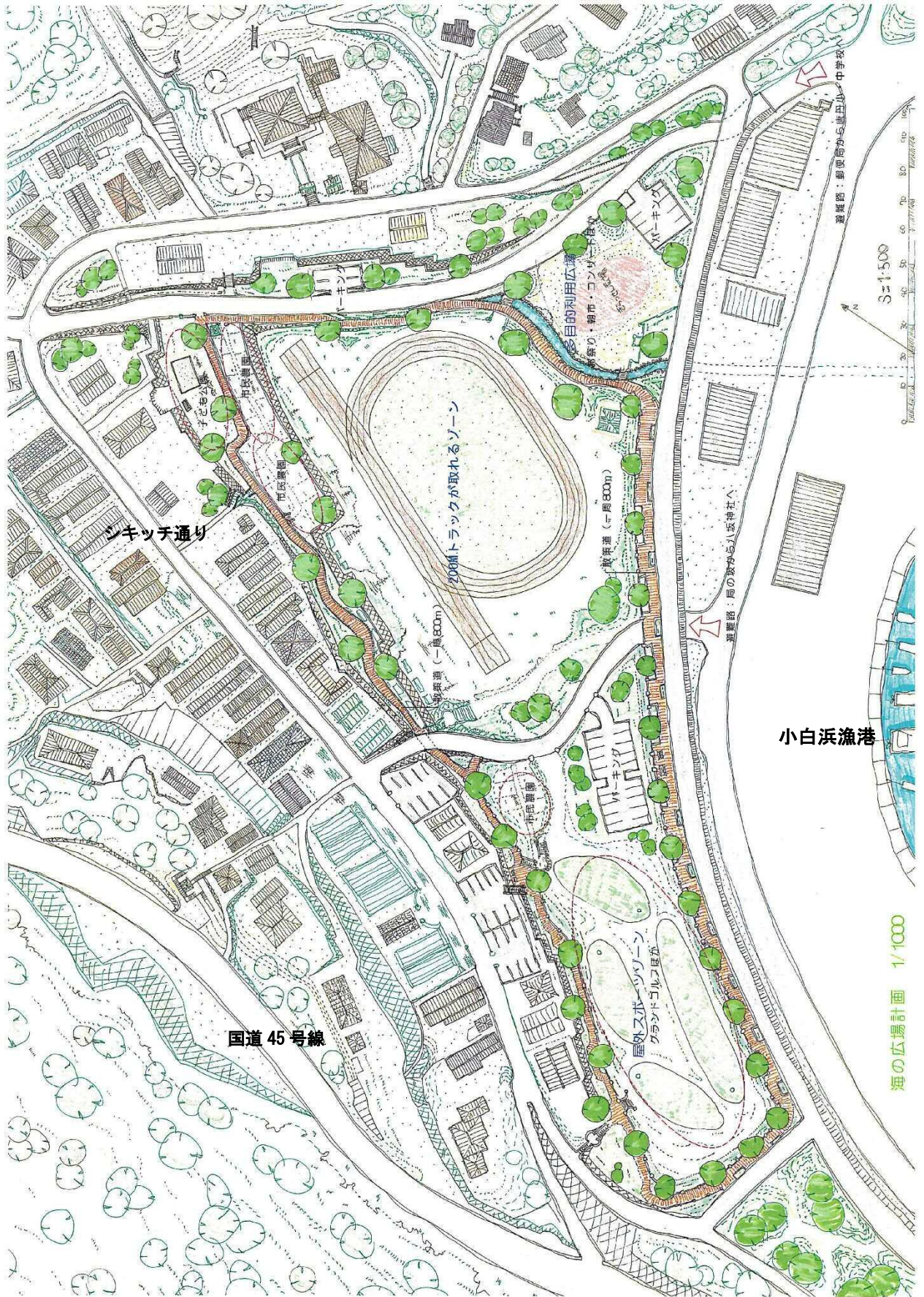


「参考サイト「Google マップ」」



グラウンドより小白浜漁港を臨む

海の広場計画図



【海の広場計画説明】

計画では、200m の仮設トラックが小中学校施設として、すでに予定されていることから、その配置を検討し、他の必要施設についての面積や配置を考えました。その際、低地からの避難路の意味も兼ねて、幅 5m 程度の道路の配置が重要であることを確認しました。中央部の「局の坂」は、現状よりも勾配を緩くして、かつグラウンドの配置を考え、湾曲させました。また、小中学校からさらに国道 45 号線につながる道路とシキッチ通りの交差点からスタートする、低地部の北側の擁壁に沿ってもう 1 本の 5m 幅の道路を配し、それに合わせて、水路の暗渠も若干、移設することとしました。それらの道路については、2 か所の海へ出るゲートを、防潮堤の現在ある位置に確保することで、浜との日常の便と共に緊急時の避難路の確保も図ります。

さらに、低地部全体を眺めながら周遊できる、1 周 800m 程度の遊歩道を計画しました。概ね、シキッチ通り側の 2 段にした擁壁の中間部と、防潮堤の内側に配し、標高は 3m から 6m くらいの範囲で緩やかな起伏を伴うものの、車椅子での散歩も可能にします。

東隅には、多目的広場を設け、野外音楽会やお祭りの集合地点、さらには週末のオープンマーケットなどの利用に供します。また、グラウンドとの間の水路は、開渠とし、子供達の水遊びも可能なように整備します。南西部は、かつての工場や商業施設のあったところですが、幅もやや狭いことも勘案し、当面は、芝地とし、グラウンドゴルフが可能なスペースを計画しました。唐丹町民全体での使用に供します。

畑地および駐車場については、大きくまとめるよりは、数か所に配置することにより、利用しやすくします。畑地については、1 坪から 3 坪程度の、唐丹地区以外の人も含めた個人利用のものから、仲間を募った市民農園など、多様な利用形態を考えます。畑地や子ども公園には、適宜、休憩できるよう東屋やトイレも配します。駐車場は、それぞれの施設への便を考え、道路の脇に数か所に分散して設置します。また、公民館や生涯学習センターなどの利用時の便も考え、遊歩道からの階段でのアクセスも計画します。

この計画案を、意見交換会最終日の 13 日午後に、公民館において、昨年制作した唐丹小白浜地区の 1000 分の 1 の地形模型と、今年制作した低地部の 500 分の 1 の地形模型と共に展示し、発表しました。今後、整備された後の、管理の方法などについても、議論を重ねる必要があることを確認し、第 2 回意見交換会のまとめとしました。

4)意見交換会

プログラム

| | 開催場所 | 午前 | 午後 | 宿泊先 |
|-----------|--------------------|---|---|------------------------------|
| 10月11日(金) | 唐丹町小白浜 小野宅1階ホール | 会場準備 | 被災低地利用案検討(1) ・事前アンケート調査整理・ マトメ ・被災低地の現状と将来像 | 遊 YOU 亭 夏虫 大船渡市 越喜来 |
| 10月12日(土) | 唐丹町小白浜 小野宅1階ホール | まちの方々と意見交換会 10:00～12:00 ・アンケート調査結果の報告 ・被災低地利用の意見交換 | 被災低地利用案検討(2) ・午前中の意見交換会を踏まえて、計画案作成に向けて議論の深化・まとめ ・計画案作成作業 | 遊 YOU 亭 夏虫 大船渡市 越喜来 |
| 10月13日(日) | 唐丹町小白浜 公民館2階 | 被災低地利用案検討(3) ・計画案作成に向けて議論の深化・まとめ ・計画案作成作業 | まちの方々と意見交換会 14:00～16:30 ・計画案の発表・内容説明 ・意見交換会及び取りまとめ ・講演会(葉袋日本女子大準教授) | 遊 YOU 亭 夏虫 大船渡市 越喜来 |

■10/11 到着・準備

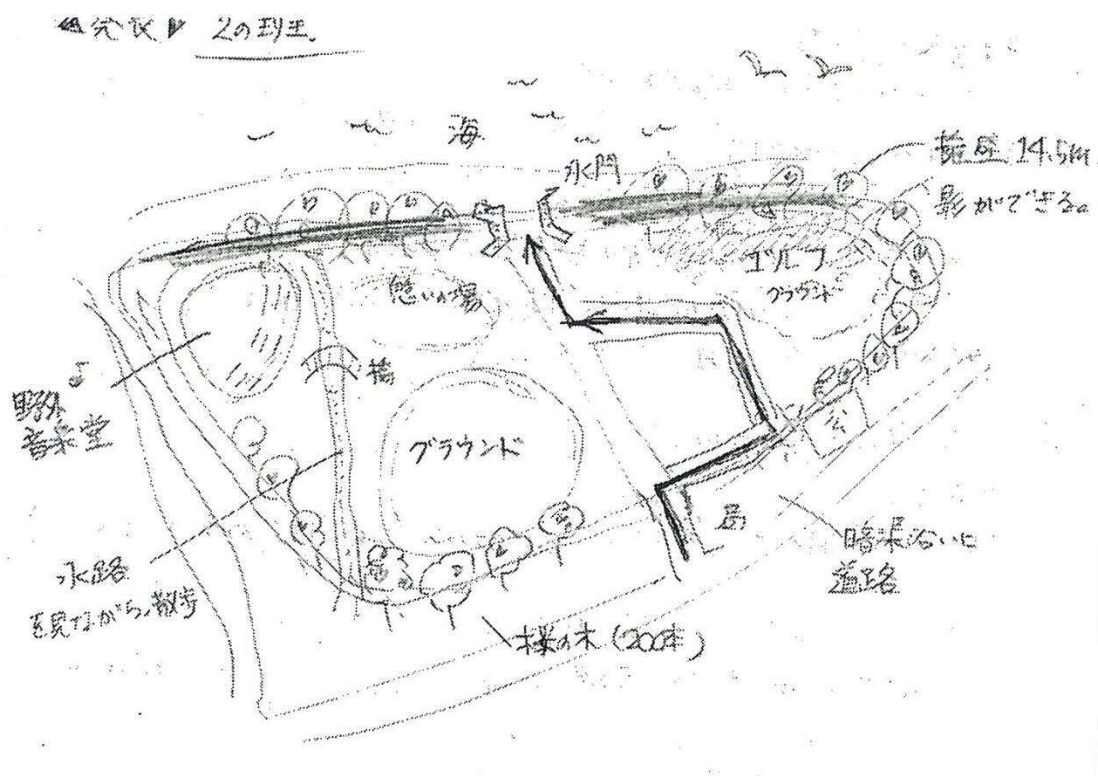
- * 神田会長は前日より釜石に入る。佐々木町会長、木村 NPO 理事長に挨拶し、先行して会場の準備作業に入る。小林・続山・安田 小白浜に到着。守利、水野現地に合流。
- * 日本女子大グループはアンケート調査結果のマトメ作業を分担する。
- * 14:00 会場小野宅で今回の3日間に渡る意見交換会の開会宣言。
町会長挨拶、NPO 理事長、神田会長より昨年からの経緯の説明。
- * 16:20 水津・永谷・東・倉田・中村・西 現地に合流
- * 明日の準備・手配を済ませ、17時過ぎ宿泊先に移動

■10/12 意見交換会

- * 8:00 西嶋 現地に合流(深夜バス乗り継ぎ唐丹駅着)
- * 9:00～ 会場準備、掲示物の張り出しなど。町会長、NPO 理事長、住民の方三々五々来場

★2の班(木村 NPO 理事長) 広場利用の主旨説明

- ①局の坂をコの字にクランクさせ中央にふくらみをつくり、勾配を緩やかにする。中央の避難ゲートにつなげる。
- ②中央部の敷地通り側（高いところ）に畑、こども公園駐車場を分散計画する
- ③中央の広がり運動トラック、憩いの場をつくる。
- ④局の坂の西側には老人クラブなどで利用できるグランドゴルフ場があったらよい
- ⑤郵便局からの道は暗渠を利用し一部開渠とし親水公園的なつくりとする。
- ⑥隣接した南東のコーナー部分には多目的な広場（音楽堂、マーケットなどの利用）を考える
- ⑦広場一周の散策路がほしい。植樹（桜など）も計画したい
- ⑧駐車場が必要



★その後 1,2 班合同全体会議では、

- ・低地の西側部分、倉庫など商業施設跡地の扱い(買収できるのか、利用できるのか)
- ・市では中央に 200mのトラックを計画していて予算化しているが、局の坂通りを跨いだ案である

・植樹、芝生(グランドゴルフ)などの予算と手入れ、管理はどうか
などの議論がでた。今日の議論を協力者・専門家チームで引き取って、議論を整理し明日の午後に計画案として発表することにして、午前中の意見交換会は閉会となる。

*** 町会長挨拶**

“今日の意見交換会の成果を計画図にして、明日午後発表し、さらに議論したい。
皆さん誘って大勢で参加して下さい”

*** 12:00 頃 中野合流、皆で昼食**

★ 13:00~17:30 全体会議 町会長、木村理事長も議論に加わる

計画現地の周辺の散策、現状調査をし、模型とあわせて午前中の議論を振り返った。
以下の諸点が特に議論になった。

①局の坂の道路の線形について

1 の班案だと、道路脇に法状用地が出来て、西と東に分断される感じがする。
また2 の班案だと浜からの生活動線がクランク、クランクで使い勝手が悪い。⇒
1 の班案を基本とし、歩行動線は階段で局の坂に直線で避難する。広場の一体感が
阻害されないように西側に計画されるグランドゴルフ場、農園などで修景する。

②郵便局からの暗渠道について

暗渠線形については、出来るだけ原型を維持し、流出先は変えないで、一部開
渠にして、親水空間とする2 の班案を基本にして、道路は敷地通り法(がけ)下
に寄せ直接現在の防潮堤ゲートに結ぶ。このことで避難路が明快になり、中央に
ふくらみが出る。

③広場を一周する散策路 約 800m

敷地通り擁壁の補強を考慮し、擁壁の中間当りに多少のアップ-ダウンがある
散策路を一周つくる。防潮堤沿いは壁面の修景をかねるように計画する。適宜ベン
チなどを設ける(住民が思い思い自分達で作ってもよい)

④低地の西側部分、倉庫など商業施設跡地の扱い

グランドゴルフ場など当面の利用形態については今後に議論が残るが(ほかに
地権者がいるので)、被災低地を海の広場として、敷地通りと一体になったまち
の施設と位置づければ、このゾーンは今後のまちの整備発展につれて土地利用が
変わってくる(新たに生まれる)ゾーンと考えられる。施設、商業、倉庫なども
今後の議論になるので、当面オープンな運動場スペース+駐車場利用が合理的と考
える。

*** 以上 計画図の下図づくり、アンケートプレゼンなど 17:30 過ぎまで作業し宿泊先に移動**

*** 夕食後 22 時過ぎまで作業チームは計画図作成作業を続ける**

■10/13 意見交換会・講演会

- * 9:00～ 作業会場入り、午後への準備
- * 日本女子大学生チーム周辺調査に出かける(案内:西)
小白浜⇒本郷⇒釜石市内⇒鶴の住居⇒大槌⇒赤浜⇒釜石市内⇒平田⇒ 11:20 作業
チームに合流
- * 11:30 日本女子大 葉袋準教授現地に合流、事前打ち合わせ、皆で昼食

【14:00～16:30 意見交換会・講演会】

- * 町会長挨拶
今回の意見交換会の趣旨の説明
- * 神田会長挨拶
昨年のワークショップの成果と今年の意見交換会の趣旨の説明
昨日の意見交換会の概要説明、事前のアンケート調査の結果報告
- * 西より昨日の意見交換会を踏まえて本日の「海の広場」計画案が出来た流れ、概要の説明をする
- * 倉田より 海の広場計画案の概要説明をする
- * 東より 計画案の主に空間構成について説明する
- * 日本女子大学生による発表＝今回の意見交換会に参加しての意見・感想(安田・続山・小林・中野)
- * 質疑応答 以下主要点羅列
 - ・ゾーンを分散配置するのがよい、駐車場をいくつかとりたい
 - ・自分の宅地はどうなるのか?⇒危険区域指定内は買い上げ予定と説明(神田)
 - ・買い上げてもらえない土地はどうなるのか?
 - ・市は一括して被災低地を整備してほしい
 - ・局の坂、郵便局通りとも道路巾員狭い、6mくらいに整備してほしい
(子どもが自転車で通ると怖い)

★ 日本女子大学 葉袋準教授 講演(講演資料 巻末 8-2 参照)

唐丹及び池田町の実例を引いて「管理し続けられるオープンスペース」をテーマに講演される

- ①子どもが外遊びできる地域空間＝子どもが大人を引っ張り出す
- ②管理したくなるオープンスペース＝管理することが儲かる・感謝される仕組み
- ③日常の生活がうまくいく地域は人々が住み続けられる
- ④海辺であることを忘れない仕掛けが大切 (以上主旨)

★ 引き続き意見交換会に入る

- ①広場を整備する主体は？事業資金は？⇒グラウンド・農園など自分達の身の回りで支えられる施設であることが必要
 - ②この計画は決定なのか？⇒住民の意見としてこれから市に要望していく、仮設で 200mのトラックは予算がついたと聞いている(神田)
 - ③子どもは 10 人/学年なのにグラウンドは誰が使うのか？⇒片岸までの往復は遠い(住民)
 - ④グラウンドは 1 回/年 の草刈は最低必要
 - ⑤遊歩道も管理が必要、ボランティアで出来るか、高齢化で若い世代がいない
 - ⑥グラウンドは多目的に使いたい
 - ⑦土地の買取が出来る所と出来ない所があると不公平
 - ⑧市が土地を買い上げてしまうと公有地になり、後々市民の自由に出来なくなることも考慮
 - ⑨計画は素晴らしいが管理と維持に対する心配がある
- など「海の広場」計画案は多くの参加者の合意が得られた一方、実現に向けて多くの問題点もあわせて指摘された。

* 町会長挨拶

* 神田会長挨拶 16:30 閉会





5) まちづくり意見交換会&シンポジウム 2013.10.11~13

主催側出席者(順不同、敬称略)

薬袋奈美子(日本女子大学準教授)、守利靱彦(住宅勉強会)、水野美代子(住宅勉強会)、西嶋一欽(京都大学準教授)、日本女子大学 学生 4 名、倉田充(アトリエ 71)、東亮(アトリエ 71/東設計所)、中村賢治(アトリエ 71/杉原設計事務所)、

小白浜町会長 佐々木啓二、NPO 法人 しゃくなげ net 釜石 理事長 木村富勝
建築基本法制定準備会 神田順、永谷芳郎、水津秀夫、西一治

6)あしがきにかえて

「伝統ある暮らしと現代的土地利用の共存を」 日本女子大学準教授 薬袋奈美子

唐丹に何度か訪問させていただいて、本当に美しい形の湾だなと毎回感じる。とても穏やかで、沢山の命を宿す海を見下ろす暮らしは、毎日が気持ち良いだろうと羨ましく感じます。多くの家から海が見下ろせるようになっており、夏の暑い日にも気持ちよく海からの風が家の中を通りぬける雰囲気がとても気に入りました。都会には無い、そういう暮らしを続ける方法を探るのが、復興計画を考える上で最も大事ではないかと感じています。



海に面した住まい。風が心地よく通り抜けていた。



海辺の暮らしを支える外流し。家の中では大きな魚を扱えませんか。



海辺から最短で高台に駆け上がることのできる神社の階段。

今、都市部では“エリアマネジメント”という言葉が盛んに使われています。地域をいかに暮らしやすいように管理するののかということを考えるための言葉です。行政任せでうまくいかなかった地域毎の特性を踏まえた、行政の部局間横断的な問題、行政の枠組みでは解決できない問題を解決していく必要があるということで創りだされた言葉であると私は理解しています。

唐丹には、そんなカタカナ用語を使わなくても、自分達の地域を自分達で管理する力があるように感じました。一人一人が海を意識した暮らしを営み、隣近所同士が気軽に声を掛け合い、生活を楽しんでいらっやいます。山を気にしたり、海を気にしたりする暮らしがあります。そういった中で、どうしても釜石市という巨大な行政組織を通してお願いしたいことだけを釜石市にお願いし、海に向き合った暮らしの中で海の恵みを皆がうまく享受することを気配りし合い、そして山の恵みを得る方法を忘れなければ、あとは住民の方々の中で地域を維持し続けられるのではないかと感じます。

今回の訪問で最も印象的だったのは、ある御宅の入り口に「下の畑にいます」の張り紙があったことです。宮沢賢治が今でも息づいているのだと感じるとともに、そういった一言を掛け合う暮らしが残っていること、「下の畑」がどこであるかをお互いに知っていることに、本当に素敵なコミュニティだと感じました。

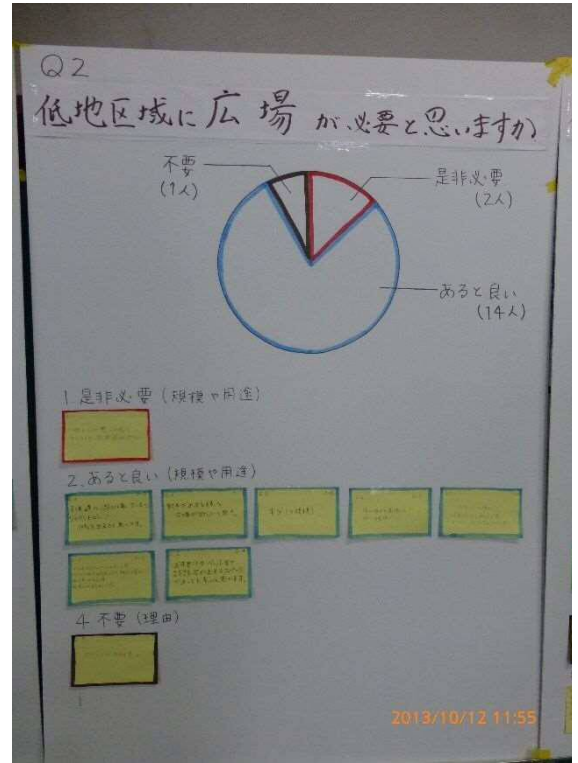
ここで言う“下”はまさに住宅の建築が禁止されることになり、“みんなの場所”としての計画づくりをしなくてはいけない場所です。畑作業は、地域の維持にとっても大切な場です。お互いの作業の様子が見えますし、気軽に声をかけ、近況報告ができます。「敷地通り」よりも更に高い場所に住むことになる方々でも、気軽に畑ができるような仕掛けが整うことが地域コミュニティ維持の要になるのではないのでしょうか。

また、小白浜は、役場がかつてはあり、水産加工場に地域外の住民が通勤しにくる、賑やかな場所であったと聞きました。低地部につくることになりそうな広場（スポーツ施設等）は、地域外の方も使いに来て、小白浜の良さを知り、中には小白浜に住みたいと思う人が現れる機会になれば素敵だなと感じます。海・畑・山の恵みを住む人が共に享受することができ、更に現代的なスポーツ施設等の良さを享受できれば、伝統と現代が共存できる場所として、魅力を高め続けられるのではないのでしょうか。

小白浜での自然の恵みと共存し、自然と向き合う暮らし、そして顔の見える関係を大切に作る暮らしは、津波が来ても変わらないのではないかと思います。焦らずに、でも着実に一歩ずつ地域をどのように使いこなしたいのか、多くの方が納得する計画がつくられ実現することを期待しています。



全体検討会 10/12



全体で議論 10/13



作業は夜なべ 10/12



7)謝辞

今回の3日に渡る意見交換会 & 講演会を企画・主催され、細かいところまでご協力をいただいた小白浜町会の役員の皆様、NPO 法人しゃくなげ net 釜石の皆様には厚くお礼申し上げます。その間意見交換会の会場として快く場所を提供頂きました小野様ありがとうございます。

延べ36人の住民の方々の参加を得て始めて出来た意見交換会の報告書をこのような形で皆様にお渡し出来ることは望外の喜びですし、これが小白浜のまちづくりに何らかの役に立てば嬉しいことと思います。

この意見交換会に快く協力していただいた皆さん、ありがとうございました。

ここに記して深く感謝の意を表します。(順不同)

唐丹町の皆様

小白浜町会の皆様

NPO 法人 しゃくなげ net 釜石の皆様

日本女子大学 葉袋奈美子準教授、学部学生の皆様

京都大学 西嶋一欽準教授

住宅勉強会の皆様

アトリエ71の皆様

東 亮様

中村賢治様

遊 YOU 亭・夏虫 の皆様

建築基本法制定準備会の参加者は下記のとおり

神田順、永谷芳郎、水津秀雄、西一治(報告書文責 西)

8)巻末資料編

8-1 「唐丹町小白浜における防潮堤高さと災害危険区域指定に関する意見」

東京大学名誉教授 神田 順

8-2 葉袋準教授 講演会資料(PPT 写し)

8-3 写真資料(基本法準備会幹事 永谷)

8-4 意見交換会に参加して

- ① 基本法制定準備会 水津秀夫
- ② 日本女子大学住居学科 学生4名
- ③ 東設計所 東 亮
- ④ アトリエ71 倉田 充
- ⑤ 住宅勉強会 守利 靱彦
- ⑥ 住宅勉強会 水野美代子